



レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第3回研修会・交流会



2016年6月9日（木）BiVi天神で、福岡大学病院認知症看護認定看護師の岩本智恵美さんの司会のもと、DLBSN福岡の第3回研修会・交流会を開催しました。

まず、顧問医である坪井先生から、ケア専門職は知識を高め介護に反映させていって欲しい、ご家族は知ることによって不安を取り除くことができるので、それを介護の力に変えていって欲しいとお話しされました。その後、レビー小体型認知症の病態・症状・薬物療法についての講義が行われました。

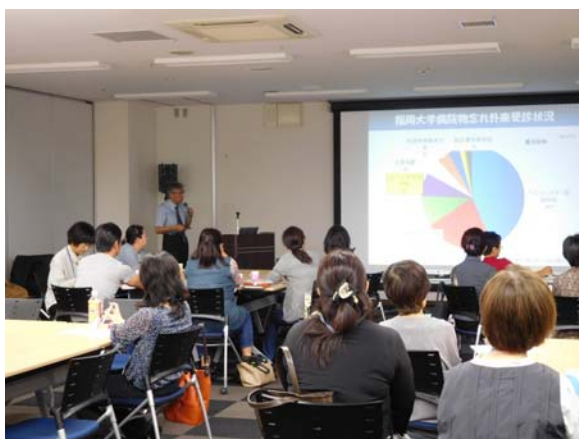
次に、ご家族、ケア専門職を交えた4つのグループでフリーディスカッションを行いました。活発なディスカッション後に、各グループの意見が発表されました。その一部をご紹介します。

グループディスカッション内容

- ・薬の副作用が強く出たので、副作用について知ることが大事だとわかった。知っていれば、もっと違う介護ができたのではと思う。
- ・幻視は、家族が受け入れることで本人が安心する。見間違いが多いので、室内環境をシンプルにすることでおさまることもある。
- ・すくみ足のために、移動や移乗の困難さを感じている。床にテープを貼るなどして目印をつけ、それをまたごうとする本人の動作を活用してはどうかとアドバイスがあった。使わない身体はどんどん弱っていくので、手すりにつかまった運動や、杖・歩行器の活用が効果的である。
- ・椅子に座っていると体がずり落ちてしまう。滑り止めマットだけでなく、座面の高さ・角度を調整するクッションを活用してはどうか。福祉用具を上手に活用するとよい。
- ・ご近所のなかで、民生委員やこの人だったら話してもいいという人に認知症であることを伝え、支援を得ることも効果的である。

- 同じ問題を抱えている人が交流会で集まることで、励みになり安心する。ケアマネージャーとして、ご家族をこの会に繋げることも役割だと感じた。
- ご本人が穏やかに生活できるようにというご家族の気持ちを知ることができた。
- 交流会がご家族の悩みを話せる場になればよいと感じた。

最後に、下村代表より「ご家族は諦めず希望をもって欲しい」とエールが送られ、会は終了しました。終了後も、お茶・お菓子を交えて参加者同士お話しされる姿がみられ、充実した時間を過ごすことができたのではと思います。



報告者:副代表 坂梨左織

次回の研修会・交流会は2016年9月8日(木)18時~です。

